

「民族共生の象徴となる空間」整備による白老町活性化推進会議

## 第3回 理事会

平成26年6月6日（金）

17:30～18:30

白老町役場第1委員会室

### 次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 説 明  
『民族共生の象徴となる空間の整備・管理運営について』
- 4 報 告
  - ① 専門部会活動経過報告について
  - ② その他
- 5 閉 会

# 「民族共生の象徴となる空間整備」による白老町活性化推進会議 第3回理事会開催結果(要旨)

## 1. 出席者

### 【会長・副会長・理事】

戸田安彦会長、山本浩平副会長、熊谷威二副会長、古俣博之理事、伊勢谷直明理事代理(清水尚昭理事)、長谷川邦彦理事、野本勝信理事、蒲原亮平理事代理(黒田聖理事)

※中村敏男副会長は欠席

【町】白崎浩司副町長、岩崎勉課長、高尾利弘課長、廣畑真記子課長、本間力課長、高橋裕明課長、江草佳和主任

【その他】内閣官房アイヌ総合政策室 小山寛参事官、吉田賢司参事官補佐、  
對馬一修北海道分室長

## 2. 開催内容

### ① 説明『民族共生の象徴となる空間の整備・管理運営について』

説明者：内閣官房アイヌ総合政策室 小山寛参事官

#### 【要旨】

※別添資料1・2に基づき、(閣議決定後の)象徴空間整備・管理運営に係る方向性、および国民理解促進の活動実施状況について説明。

#### 【質疑】

(K) 今度の具体的作業スケジュール等は何のようなものとなり示されていくのか。

(国) 現時点において全体を公開することは難しいが、「1～2年目：実施設計、3年目～：管理運営組織立ち上げ・工事開始」となるであろうと想定している。

(K) 工事に際し、地元業者の受注は見込まれるか。

(国) 施工能力に応じた工事内容に対し、地元業者あて発注することも考えられる。

(F) 「アイヌ文化の『復興』」：『復興』の言葉の重み・意味合いはどこまで波及すると考えるか。

(国) 言葉には、各地域における取組等を「目に見える形で総体的に加速させていく」という考えを含んでいると認識している。

(F) 『復興』の意味合いは個人・組織等の「権利」にも及ぶのか。

(国) 現行の憲法は「個人」に重きを置いており、既存の関係組織に対し同様に適用させるという考えは、正直馴染みづらいと考えている。

- (H) 『復興』により、「新法」の制定等も進むのか。
- (国) 現時点で不確定ではあるが、必要に応じ検討の余地はあるのではないか。
- (K) 象徴空間整備は、対象区域以外の町内に対し及ぶことはあり得るのか。
- (国) 国による直接整備の対象は、資料1でいう「中核区域」であるが、「関連区域(周辺区域)」がアイヌ文化の復興上どの程度「影響を及ぼすか・必要性があるか」により、支援が広がる可能性はある。  
※例：ポロト湖における既存の施設・資源等を活用した取組(スケートリンク・自然休養林・温泉等)は、支援の対象となる可能性有。
- (N) 事業が開始されることに伴い、現地事務所の設置はどのようなスケジュール感で行われるものか。
- (国) 予算措置後、(スケジュールは流動的であるが)開設に先立ち早期に設置する考えはある。
- (K) JR 駅周辺の状況(駅の移転等)についてはどのように整備が及ぶか。
- (国) 今後整備を進めるにあたり、国がすべきこと・地域で対応すべきところはすみ分けが必要である。

② 報告『専門部会活動経過報告について』

報告者：企画担当課長

【要旨】

※別添報告資料に基づき、今年4月28日の総会以降に開催された「情報推進・活性化推進・教育・基盤整備推進」各部会の活動内容(要旨)について報告。

【質疑】

- (K) 国および地域の会議体それぞれで動きはあるが、定期的な意見交換の場を持つ等、整合性を高めていくことは必要ではないか。
- (企) 現地準備室の早急な立ち上げを目指し、地元から国(文化庁)に対し強く働きかけ、情報共有を密に進めていく。

上記のとおり次第進行し、18時50分閉会。